

話したいことと聞きたいこと」

～ 講演の難しさは何を伝えるか？ ～

本日、千葉経営研究会という経営者達の勉強会にて、同じ勉強している仲間の安並社長に講演していただきました。

私が担当の委員でしたから 私がコーディネーター役、ファシリテーター役、司会進行役として参加させていただきました。

当日、「ぶっつけ本番でどうにかなるや！」

とかなり甘い考えていました。

さて、その中で自分自身が講演をしていたり セミナーや講演会などに参加していて感じることは、講演者の「話したいこと」と聞いている人たちの「聞きたいこと」が一致していない、ということです。

講演者は、「これからのことを話したいもの」です。

しかし 講演の参加者たちは、何を聞きたいのか？

よく言われることは、「自慢話は聞きたくないが、失敗談は何度でも聞きたい！」

という心理があります。

そして、困った時、その時に何を悩み、考え、どんな判断・決断をしたのか？

その判断・決断する根拠は何だったのか？

つまりその時、「歴史が変わった！」を知りたいものなのですね。

それとも一つ、それぞれの参加者個人の興味のあること

例えば、営業に興味がある人は営業関係のこと

事業承継に困っている人は、事業承継。

人材教育に興味がある人たちは、そのテーマと、人それぞれですね。

今回、私が講演のファシリテーター役・司会進行役をやってみて、感じたことは、

当たり前だが、「人それぞれ！」なんだな。

質問もそれなりに対応（油断）していたら、結果的に本来のテーマと違う方向に行くものなんだなと実感した次第です。

司会進行役の役目としては、テーマにそった形で、あまりふれないように軌道修正することが必要。

司会進行役の重要性、そんなことを感じました。

個人的に反省しております。

・・・やはり 事前準備は大切なんだな！

<コメント>

話したいことと聞きたいこと」・・・同じと思っはいけないものだ！

経営でいうと 上司や顧客の 期待していること」と部下や自分自身の「役目・役割」は違うかも？

元々違うものだと思っていると、それなり準備できるものです。

どれだけ準備していたかが、結果に繋がるんですね。

講演者の心構えのポイント

・・・人は他人の失敗談は聞きたいが、成功体験はあまり聞きたくないものだ！と思っはよう